

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

「たばこ税の役割と意義」

足立区立 新田中学校

三年 武田 かれん

最近、町中でたばこを吸う人は明らかに減ってきている。調べてみると、喫煙者数は一九九五年から緩やかな減少傾向にあるらしい。実際、私の父も昨年あたりから禁煙を始めた。世の中の風潮もあるのだろうが、大きな要因は、たばこ税やその増税だろう。たばこ税とは、たばこを購入する際に課される税金のことであり、その主な目的は健康被害の抑制である。何しろ、たばこは「購入しないよう」パッケージで勧めている商品だ。健康被害が深刻であることは周知の事実だろう。

たばこ税について調べると、酒税などの他の税金と比べても重い税負担率であるうえ、喫煙者にとって直接的な負担となるため、世間では賛否が分かれているらしい。たばこの料金の内訳は、国たばこ税が二四・一％、地方たばこ税が二七・八％、たばこ特別税が三・七％、消費税が七・四％と、小売価格の約六割以上が税金である。さらに、たばこ税は二〇〇三年、二〇〇六年、二〇一〇年と増税され、たばこの購入を抑制し、喫煙者を減らすことに役立っている。父も、「たばこの増税がきつくて禁煙した」と言っていた。確かに、たばこの値段が上がっていることについて、ニュースで見たことがある。

これまでのデータから喫煙者の悩みの種であるたばこ税の

使い道は、調べてみると他の税金とあまり変わらなかった。小中学校や図書館などの教育施設、高齢者や障害者のための福祉施設やサービスなどだ。また、たばこによる税収は「約二兆五千億円」にもなり、その莫大な額から国と地方の重要な財源となっている。

しかし、たばこによる経済損失は「約四兆三千億円」にも達する。日本における喫煙関連疾患が原因の「超過医療費」は一兆一四〇六億円や三兆一八二六億円など様々な推定がされているが、最低でも一兆円以上かかることがわかる。また、たばこが原因の火災による被害総額は年間約一三〇億円ほどであり、さらに火災の消防労働や清掃費で約一九十八億円、労働力損失が約二兆三六六四億円と、

喫煙による全体の経済損失は約四兆三二六四億円にも上る。たばこによる被害の方が大きいことは明らかだ。

これらの事実から、たばこ税は健康を守り社会全体の経済を安定させるために重要な役割を果たしていることがわかる。ただ「国民から税を徴収するためだけにある税」と考えられている税も。実際は国民の事を考えてのものである。批判的に思っているか、存在理由を知らない税についても、何の意義があるのかを考え、調べるという姿勢を持っている人が増えていることを願う。